



ダケカンバ(カバノキ科) 深山に多い、樹皮が白又は薄赤褐色、似たシラカンバは宮城に分布しない。



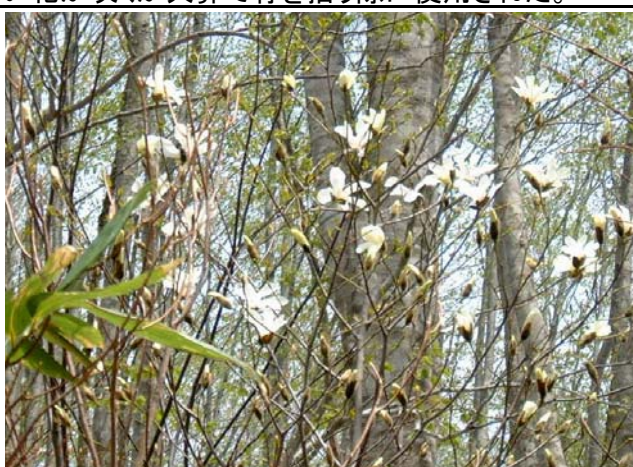
ダケカンバ(カバノキ科) 花は芽出しと同時に咲く、葉の基部が円形でウダイカンバと区別できる。



タニウツギ(スイカズラ科) 法面など普通にある、美しい花が咲くが火葬で骨を拾う際に使用された。



タブノキ(クスノキ科) 宮城の常緑樹の代表樹種、海岸線に沿って分布する、径1mの大木もある。



タムシバ(モクレン科) ブナ林から亜高山まで、雪融けと共に白く大きな花を咲かせる。



ツバシバミ(カバノキ科) 林縁などに見られる、実は1cm程あり食べると美味しい。



ツバシバミ(カバノキ科) 花は葉が展開する前に咲く風媒花、下垂しているのが雄花。



ツルアジサイ(ユキノシタ科) ブナ等に絡まるツル類、花は花びらのような装飾花が付く。



ツルシキミ(ミカン科)ブナ林の林床にある常緑樹、
頂端部に花が咲き丸く赤い実をつける。



トチノキ(トチノキ科)ブナ林の湿潤地にある代表的
な樹、大木が多い。



トチノキ(トチノキ科)花は総状花序だが実は2~5
個程付く、栗に似るが有毒で加工しないと食べられ
ない。



トベラ(トベラ科)常緑低木、タブ林の林床にある、葉
が強く匂い、魔除けとして扉に挿した。